ロブラール® 500アクア

農林水産省登録:第18708号
●成　分：イプロジオン……40.0% 殺菌剤分類 2
●毒　性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

ロブラール® 500アクアの特長

1. フロアブルタイプのため粉立ちがなく、薬液調製が簡単です。
2. 水和剤に比べ、作物への汚れを軽減することができます。
3. 各種作物の重要病害に対して優れた予防効果を示します。

適用病害および使用方法（2023年7月現在の登録内容）

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数* 本剤	使用回数* イプロジオン	使用方法
きゅうり	菌核病、つる枯病、灰色かび病	1,000～1,500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	4回	5回（種子粉衣1回、は種後4回）	散布
なす	灰色かび病						
いちご							
トマト					3回	4回（種子粉衣1回、は種後3回）	
おうとう	灰星病	1,500倍	200～700ℓ/10a			3回	
もも		1,000～1,500倍					
ハスカップ	灰色かび病	1,000倍					
ふさすぐり	果実腐敗症				1回	1回	
いちじく	黒かび病			収穫3日前まで	3回	3回	

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

使用上の注意事項

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
●使用に当っては容器をよく振って下さい。
●ボルドー液、石灰硫黄合剤との混用はさけて下さい。
●おうとうに使用する場合、着色期以降の散布は果実に汚れを生じるおそれがあるので留意して下さい。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。
●薬剤耐性菌の出現を防ぐため作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用して下さい。

ロブラール® くん煙剤

農林水産省登録:第17915号
●成　分：イプロジオン……20.0% 殺菌剤分類 2
●毒　性：劇物

ロブラール® くん煙剤の特長

1. 灰色かび病・菌核病・つる枯病に優れた予防効果を示します。
2. マッチやライターで点火紙に点火するだけで処理でき、大変省力的です。
3. ハウス内の湿度を高めないので、発病を助長せず、曇天の続く時期にも使用できます。
4. 果菜類では、収穫前日まで使用でき、しかも収穫物の汚れもほとんどありません。

適用病害および使用方法（2023年7月現在の登録内容）

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	使用回数* 本剤	使用回数* イプロジオン	適用場所	使用方法
すいか	菌核病	くん煙室容積 300～400㎥（高さ2m、床面積150～200㎡）当り100g（50g×2個）	収穫前日まで	4回	5回（種子粉衣1回、は種後4回）	温室、ビニールハウス等密閉できる場所	くん煙
メロン	菌核病、つる枯病						
いちご	灰色かび病						
きゅうり	菌核病 灰色かび病						
なす							
ピーマン				3回	4回（種子粉衣1回、は種後3回）		
トマト							
ミニトマト							
とうがらし類				2回	3回（種子粉衣1回、は種後2回）		
ぶどう	灰色かび病		開花直前～幼果期	3回	3回		

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

使用上の注意事項

●温室、ガラス室、ビニールハウス等防除しようとする室の戸や窓を閉め、室の容積によって使用量を決め、分散して薬剤を配置(1カ所100g以下)し、煙がまんべんなく行きわたるようにして下さい。
●使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
●くん煙する場合は、添付の吊具または所定の電気式点火・くん煙装置を使用してくん煙して下さい。吊具および電気式点火・くん煙装置は吊り下げるかまたは不燃性の台などの上にのせて使用して下さい。なお、植物体、可燃物から離れた中央の安全な場所に設置して下さい。とくにビーニル等の被覆材とは60cm以上離れた位置で使用して下さい。
●点火は以下のとおりに行って下さい。
　○点火紙を用いる場合
　　同封の点火紙を吊具の所定の位置に正しく設置しその上に薬剤をのせてから点火紙に点火して下さい。点火紙を薬剤の上にのせて点火すると炎が出るのでさけて下さい。発煙直後に万一炎が出た場合は吹き消して下さい。点火後発煙を確認したらくん煙室の外に出てそのまま放置して下さい。
　○電気式点火・くん煙装置を使用する場合
　　装置は水などに濡れないように設置し、電源がオフになっていることを確認の上、薬剤を装置の所定の位置に正しく設置した後に通電して下さい。点火後発煙したら電源のオフを確認し、くん煙室の外に出てそのまま放置して下さい。発煙直後に万一炎が出た場合においても、再びくん煙室に入らずに、そのまま放置して下さい。
　○点火後はくん煙終了時までくん煙室に入らないで下さい。
●日中のくん煙はさけ、夕刻からくん煙し、翌朝開放して下さい。
●高温時（30℃以上）のくん煙は薬害を生じやすく、また、風の強い日は煙がかたよってしまい、均一な効果がでにくいので使用しないで下さい。
●定植直後、幼苗、軟弱徒長苗、草勢または樹勢が弱っている場合には、薬害を生じるおそれがあるので使用はさけて下さい。
●作物がハウスの天井に触れるくらいに大きくなっている場合、上方にたまった濃煙が触れる部分に薬害を生じるおそれがあるので使用をさけて下さい。
●ぶどうに使用する場合、葉焼け等の薬害を生じやすいので次の事項に注意して下さい。
　○発煙は1カ所50g以下で行って下さい。
　○天井と棚との間隔が30cm以下の場合、暖房機などの送風機を作動させ、煙の拡散を図って下さい。
　○デラウエア、巨峰、ピオーネ以外の品種では薬害を生じやすいので必ず吊具を用いてくん煙して下さい。
　○超早期加温栽培の場合や樹が軟弱に成長した場合にはとくに薬害を生じやすいので使用はさけて下さい。
●薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用して下さい。
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
●使用残りは、必ず外箱に入れて保管して下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
https://cropscience.bayer.jp/
お客様相談室 0120-575-078
9:00～12:00,13:00～17:00 土日祝日および会社休日を除く

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。　●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。　●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

第3版　L2-2005 23.07.NY

恵みには、かかせないもの。

野菜類や果樹類など
多くの作物に登録がある。
環境にもやさしい殺菌剤の決定版。

ロブラール®

FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

ロブラール®水和剤

農林水産省登録:第14212号
●成　分：イプロジオン……50.0% 殺菌剤分類 2
●毒　性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

ロブラール®水和剤の特長

◆重要病害をカバーする幅広い活性

果樹、野菜の主要病害である灰色かび病、菌核病、灰星病、つる枯病、黒斑病など、各種重要病害に卓効を示します。

◆野菜類から果樹類など多くの作物に登録があります。

◆他剤耐性菌に高い効果を発揮

ベンズイミダゾール系殺菌剤や、ポリオキシン剤の耐性菌が問題になっている病害に対しても、安定した高い効果を発揮します。

◆水産動植物、ミツバチ、各種天敵に対する影響の少ない薬剤です。

!! 使い方のポイント（野菜の灰色かび病の例）

灰色かび病菌（*Botrytis cinerea*）は、なす、きゅうり、トマト、いちごなどの果菜類だけでなく、豆類、果樹など数多くの作物に感染、発病させる病原菌です。
灰色かび病菌は低温・多湿条件で急激に増加し、また感染・発病が長期間にわたるのが特徴です。このため、どうしても薬剤散布の回数が多くなり、菌そのものの性質も相まって耐性菌が発生しやすくなっています。

発生を抑える。まん延を防ぐ。これが防除のポイント。

【1】栽培環境に気を配り、たとえば開花後の花弁は早めに摘みとり、伝染源となる罹病果・茎葉はすみやかに除去し、灰色かび病の発生条件を少なくするように努めてください。
【2】予防的散布（早めの散布）が基本です。
・開花期または結球始期の散布が効果的です。
・発病前や発病初期からの予防的散布で早め早めに防除してください。
【3】同一系統の薬剤の連用はさけ、作用性の異なる薬剤グループを組み合わせて使用してください。

適用病害および使用方法（2023年7月現在の登録内容）

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	使用回数* 本剤	使用回数* イプロジオン	使用方法
なし	黒斑病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	14日	5回	5回	散布
もも	灰星病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
ネクタリン	ホモプシス腐敗病	1,000	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
おうとう	灰星病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
	黒かび病	1,000	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
すもも	灰星病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
あんず	灰星病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	3日	3回	3回	散布
びわ	灰色かび病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
うめ	灰色かび病、環紋葉枯病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	45日	2回	2回	散布
食用桑（果実）	菌核病	1,000	200～700ℓ/10a	14日	2回	2回	散布
キウイフルーツ	果実軟腐病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	前日	4回	4回	散布
	灰色かび病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	開花期～落花期	4回	4回	散布
	貯蔵病害（灰色かび病）	1,500～2,000	200～700ℓ/10a	前日	4回	4回	散布
ぶどう	灰色かび病、白腐病	1,000～1,500	200～700ℓ/10a	開花期～幼果期 但し、60日	3回	3回	散布
	黒とう病	1,000	200～700ℓ/10a	開花期～幼果期 但し、60日	3回	3回	散布
マンゴー	灰色かび病	1,000	200～700ℓ/10a	7日	3回	3回	散布
はとむぎ	葉枯病	1,000	200～700ℓ/10a	21日	3回	3回	散布
		1,000	60～150ℓ/10a	21日	3回	3回	散布
		8	3.2ℓ/10a	21日	3回	3回	無人航空機による散布
いちご	灰色かび病、黒斑病、菌核病	1,500	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
ピーマン	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
なす	灰色かび病、黒枯病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
	菌核病、すすかび病、褐色斑点病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
きゅうり	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
すいか メロン	菌核病、つる枯病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
ズッキーニ	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	前日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	使用回数* 本剤	使用回数* イプロジオン	使用方法
キャベツ	菌核病、株腐病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
葉用にんじん	灰色かび病、斑点病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
にんじん	斑点病、黒葉枯病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	4回	5回（種子粉衣は1回、は種後は4回）	散布
	黒葉枯病	種子重量の0.5%	－	は種前	1回	2回(種子粉衣は1回、は種後は1回)	種子粉衣
漬物用メロン	菌核病、つる枯病	1,000	100～300ℓ/10a	14日	1回	2回(種子粉衣は1回、は種後は1回)	散布
オクラ	黒斑病、灰色かび病	2,000	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
トマト	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
ミニトマト	輪紋病、斑点病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
ごぼう	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	3日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
あしたば	葉枯病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
たまねぎ	灰色かび病、灰色腐敗病、黒斑病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
くきちしゃ	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	7日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
	菌核病、すそ枯病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
レタス	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
	菌核病、すそ枯病	1,000	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
しそ、バジル	菌核病	2,000	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
はくさい	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
	白斑病、黒斑病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
ねぎ	ボトリチス葉枯症、黒斑病、小菌核腐敗病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
	小菌核腐敗病	500	0.5～1ℓ/㎡	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	株元灌注
	白絹病	500～1,000	1ℓ/㎡	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	株元灌注
あさつき	ボトリチス葉枯症、黒斑病、小菌核腐敗病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
わけぎ	ボトリチス葉枯症、黒斑病、小菌核腐敗病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	14日	3回	3回	散布
らっきょう	灰色かび病	1,000	100～300ℓ/10a	30日	3回	3回	散布
ばれいしょ	菌核病、夏疫病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	4回	4回（種いも散布は1回）	散布
	黒あざ病	125	3ℓ/種いも100kg	植付前	1回	4回（種いも散布は1回）	種いも散布
さやえんどう	灰色かび病	1,500	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
えだまめ	灰色かび病、菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	30日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
未成熟そらまめ	赤色斑点病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
実えんどう	灰色かび病	1,000	100～300ℓ/10a	前日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
だいず あずき	灰色かび病、菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	21日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
いんげんまめ	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	21日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
	菌核病	500～1,000	100～300ℓ/10a	21日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
らっかせい	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	21日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
てんさい	葉腐病	500～1,000	100～300ℓ/10a	21日	3回	4回（種子粉衣は1回、は種後は3回）	散布
食用ゆり	葉枯病	1,000	100～300ℓ/10a	7日	3回	3回	散布
ししとう	灰色かび病	2,000	100～300ℓ/10a	前日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
とうがらし類（ししとうを除く）	灰色かび病	2,000	100～300ℓ/10a	3日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
葉たまねぎ	灰色かび病、灰色腐敗病、黒斑病	1,000	100～300ℓ/10a	14日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
ひろしまな	白斑病	1,000	100～300ℓ/10a	14日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
未成熟ささげ	灰色かび病	1,500	100～300ℓ/10a	前日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
葉ごぼう	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	30日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
のざわな	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	35日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
みぶな	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	45日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
みつば（軟化栽培）	菌核病	1,000	100～300ℓ/10a	根株養成期　地上部切り取り前 但し、35日	2回	3回（種子粉衣は1回、は種後は2回）	散布
			2ℓ/㎡	伏込時 但し、30日	1回	4回(種子粉衣は1回、散布は2回、土壌灌注は1回)	土壌灌注
畑わさび	墨入病	1,000	100～300ℓ/10a	定植時	1回	5回(種子粉衣は1回、苗浸漬は1回、定植後は3回)	定植時に20時間苗浸漬し、更に定植後に灌注する。
		500	3ℓ/㎡	定植後 但し、30日	3回	5回(種子粉衣は1回、苗浸漬は1回、定植後は3回)	定植時に20時間苗浸漬し、更に定植後に灌注する。
うど	黒斑病	1,000	100～300ℓ/10a	根株養成期 但し、50日	3回	4回(散布は3回、土壌灌注は1回)	散布
	菌核病	1,000	6ℓ/㎡	伏せ込み時 但し、21日	1回	4回(散布は3回、土壌灌注は1回)	土壌灌注
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病	2,000	100～300ℓ/10a	前日	5回	6回(種子粉衣は 1回、は種後は5回)	散布
茶	灰色かび病	1,000～1,500	200～400ℓ/10a	21日	2回	2回	散布
スターチス	灰色かび病	1,000～1,500	100～300ℓ/10a	－	8回	8回(種子粉衣は1回)	散布
りんどう	苗腐敗症（アルタナリア菌）	250～500	－	は種前	1回	2回(種子浸漬は1回)	48時間種子浸漬
		1,000	100～300ℓ/10a	本葉展開直後～定植前	2回	2回(種子浸漬は1回)	散布
たばこ	菌核病	1,500～2,000	200㎖/株	大土寄時	1回	1回	株元灌注
芝	葉腐病（ブラウンパッチ）、ヘルミントスポリウム葉枯病	1,000～1,500	1ℓ/㎡	発病初期	8回	8回	散布
日本芝	葉腐病（ラージパッチ）	1,000～1,500	1ℓ/㎡	発病初期	8回	8回	散布
西洋芝（ベントグラス）	ダラースポット病	1,000～1,500	1ℓ/㎡	発病初期	8回	8回	散布
野菜類、花き類	アルタナリア菌による病害	種子重量の0.5%	－	は種前	1回	1回	種子処理機による種子粉衣

〈常温煙霧〉

適用場所	作物名	適用病害名	10アール当り使用量 薬量(g)	10アール当り使用量 使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数* 本剤	使用回数* イプロジオン	使用方法
温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	200	5	前日	4回	5回(種子粉衣は1回、は種後は4回)	常温煙霧
	トマト、ミニトマト	灰色かび病	200	5	前日	3回	4回(種子粉衣は1回、は種後は3回)	常温煙霧
	ぶどう	灰色かび病	200	6	開花期～幼果期、但し、60日		3回	常温煙霧

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

使用上の注意事項

●本剤の所定量に少量の水を加えて糊状にねり、のち所要量の水を加え、十分かきまぜて散布液を調製して下さい。
●散布液調製後はできるだけ速やかに散布して下さい。
●ボルドー液、石灰硫黄合剤との混用はさけて下さい。
●使用の際は展着剤を加用して下さい。
●畑わさびの墨入病に使用する場合、定植時に20時間苗浸漬した後、さらに定植後に1㎡当り3ℓを約30日間隔で3回灌注して下さい。
●ぶどうに使用する場合、果実肥大期以降の散布は、果実に汚染を生じるおそれがあるのでさけ、開花～幼果期までにして下さい。
●すいかに使用する場合、草勢が弱っている時の散布は薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
●薬剤耐性菌の出現を防ぐため、過度の連用をさけてなるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせ輪番で使用して下さい。
●みつばに使用する場合、伏込前または土寄せ前に切り取った地上部を食用に供さないで下さい。
●ハウスなどの常温煙霧として使用する場合、以下の事に注意して下さい。
- 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。特に常温煙霧装置の選定および使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉して下さい。
- 定植直後や幼苗、軟弱苗など草勢の弱っている時は、薬害を生じるおそれがあるので使用はさけて下さい。
- ぶどうに使用する場合、巨峰以外の品種では薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。

●本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
- 散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
- 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
- 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
- 周辺に栽培されている作物に飛散しないよう十分注意して下さい。
- 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
- 散布終了後は次の項目を守って下さい。
  ①使用後の空袋は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
  ②使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきって下さい。
  ③機体の散布装置は十分洗浄すること。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないで下さい。

●蚕に対して影響があるので、桑に使用後15日間は蚕に桑葉を給餌しないで下さい。
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。